

JAFTAB

NEWS

日本貿易学会

No.85 Mar , 2019

本部事務局 〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台 1-1 明治大学商学部 篠原敏彦研究室

東部事務局 〒161-8539 東京都新宿区中落合 4-31-1 目白大学経営学部 加藤孝治研究室

西部事務局 〒603-8555 京都市北区上賀茂本山 京都産業大学外国語学部 鈴木清巳研究室

ご挨拶

会長 篠原敏彦 (明治大学)

会員の皆様には常日頃より学会の運営におきまして、ご支援、ご協力をいただきまことに有り難うございます。

さてご案内の通り本年の第 59 回全国大会は 5 月 25 日、26 日に愛媛県松山市の松山大学で開催されますが、昨年より実行委員長の上羽博人先生はじめ大会準備委員会の先生方の精力的な作業により研究発表者の陣容もほぼ固まりました。また大会前日 5 月 24 日には全国理事会に先立ち、今治市で開催の造船関連のイベントである「バリシップ」への参加も企画していただき、大会準備が順調に進んでおりますので、松山大会には多くの会員の方々に参加していただきたくよろしくお願ひ致します。

また会務の方ですが、部会活動に関しましては、東西両部会も予定通りのスケジュールをこなし活発な研究活動が展開されております。このニュース発刊時点では恐らく全ての部会開催が完了していると思っておりますが、大方の参加しました各部会ともに有意義な議論が交わされたかと存じます。学会のもう 1 つの顔となるジャーナルおよびリサーチ・ペーパーも編集委員長を中心として編集作業が完了し、出版社への最終原稿の入稿を終え大会総会時に配布できる予定です。昨年末の韓国貿易学会への参加は本ニュース中に詳細がありますように、代表者 3 名の先生方による研究発表および先方との親善交流がなされました。

今後の予定ですが、松山大会では会員の皆様に検討していただく必要のある幾つかの新たな事業提案をさせていただきたいと考えております。1 つは、当会の研究活動をさらに活性化させるための方策に関わるもので、会員の皆様が今よりもより旺盛に研究できることが容易になるような環境整備を試みるものであります。いま 1 つは少し時期が早いですが来年の当会創設 60 周年記念大会に伴う事業計画であります。経費を要する事業計画は、学会誌の過去 20 年分の電子化、CD 化の案件以来となりますが、節目の 60 周年に因み歴史ある当会として記念碑となるものを残すことを計画しております。

以上のごとく例年にも増して重要な松山大会となりますので、ぜひとも多くの会員の方々の参加を期待したいと思います。会員の皆様におかれましては、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

1. 第 59 回全国大会開催案内

① 開催案内（実行委員長 松山大学 上羽博人）

第 59 回全国大会【統一テーマ「地域経済と貿易」】を、松山大学（愛媛県松山市文京町 4 番地 2 <http://www.matsuyama-u.ac.jp/>）において開催いたします。

・ 5 月 25 日（土）自由論題、統一論題、会員総会、懇親会

・ 5 月 26 日（日）自由論題

最寄り駅は伊予鉄路面電車「鉄砲町駅」となります（駅より徒歩 5 分）。

宿泊は「松山市街」と「道後地区」があり、大会会場まで松山市街からは路面電車（大街道駅から）で約 30 分、道後地区からは路面電車（道後温泉駅から）で約 45 分です。

② 統一テーマ「地域経済と貿易」趣意書

貿易を内部化したグローバル・サプライチェーン（G-SC）の時代の地域経済では、地方経済だけではなく大都市、大企業の立地する地域も考慮しなければならない。それは、貿易・投資の規制緩和、物流、情報・通信システムの高度化、国際工程間分業の拡大と細分化、ISO（国際標準化機構）などの国際規格の普及などにより、貿易が地域の産業構造に直接影響を与えているからである。

地域経済には、大都市部とのネットワークを持つ、太平洋ベルトのような充実した工業地帯を持つ、海外の経済と直接連結されている、中小の地場産業のみに依存するなどさまざまであるが、今日の地域経済の趨勢は G-SC の影響を受けやすい企業がどれだけその地域にあるかということと関係している。大都市、大企業の立地する地域だから優位、地方であるから劣位ということではなく、地域の企業が G-SC と関係が深ければ繁栄や衰退の速度が速くなる可能性があるため、企業が G-SC のどの位置（工程、立地など）や内容（コスト、技術、擦り合せ工程、組み立て工程、地場産業との関係など）、規模（装置産業など）であるかなどがポイントとなっているのである。

たとえば加工組立型工業において、物流、情報・通信システムが脆弱であった時代は特定の狭い地域にフルセット型の産業集積が形成され地域経済全体が栄えていた。しかし、物流、情報・通信システムが高度化し最終製品メーカーや 1 次サプライヤーの海外直接投資、技術移転が増えると同時に海外でのサプライヤーの育成が行われるようになると、国内の 2 次、3 次以下のサプライヤーの輸出が減少するとともに海外からの部品や中間財の逆輸入が生じ地域の経済が衰退していく。最悪の場合、グローバルな経営資源の最適配置のために最終製品メーカーが完全に移転し地域の経済力が一気に低下することもある。すなわちグローバルな JIT 型（ネットワーク型）の国際工程間分業が行われることにより、貿易の質と量が変化し貿易の内容が地域経済に直接大きな影響を与えるのである。

日本では企業の活動が国や地域の枠を超え地域経済が外部の影響を受けやすくなるなか、急速な人口減少もあり、地域（自治体など）は地域経済の長期の安定を維持するためこうした環境の変化に戦略的、迅速、柔軟に対応していかなければならない。

第 59 回大会では「地域経済と貿易」としてテーマを設定することで、グローバルな視点から地域経済を議論することにより、今後の日本の方向性についての議論の場を提供するものである。

（大会実行委員長 松山大学 上羽博人）

2. 国際交流活動 ～韓国貿易学会冬季学術大会参加報告

- ① 日時：2018年12月15日
- ② 場所：ソウル・トレードセンター51階
- ③ テーマ：2019年のグローバル貿易イシューと韓国貿易業界の対応
- ④ 日本貿易学会からの参加者・報告者・報告内容

団長： 鈴木清巳(京都産業大学)

報告者 岩田伸人(青山学院大学)：TPP and Digital Trade: a spread of digital trade rule/agreement under WTO/RTAs

宋俊憲(東京国際大学)：A Study on Japan's generalized system of preferences: Focusing on China's graduation and its trade effects

⑤ 大会参加報告

当日、午後にCOEXにある貿易センター51階の会場にて開会式に参加し、日本貿易学会からのゲストとして3名が起立して紹介される。開会式の最後に、韓国貿易学会の会長・役員、他のゲストと共に壇上で記念写真撮影。その後のセッションが始まる前に、現会長、次期会長その他の会員の方々と挨拶・名刺交換を行う。その際、現会長のSeung-Lak Park氏(Cheongju Univ.)に対し、鈴木団長より、篠原会長の代理として参加し、篠原会長からの、今後とも両学会の友好的な学術交流の継続を宜しくお願ひしたいというメッセージを伝える。Seung-Lak Park氏は、今年で任期が終わられるが、次年度会長のSoon-Hwan Jeon氏(中部大学教授)にも挨拶し同様のメッセージを伝える。

15時過ぎからのセッションで、岩田先生、宋先生がそれぞれ報告され、その後、活発な質疑応答が行われる。18時過ぎからの懇親会・歓迎会(別会場)において、上席での歓待を受け、三名とも現会長をはじめ、多くの先生方と交流する。とりわけ宋先生は、日本貿易学会の来年の全国大会の案内をハングルで何部か用意され、次期会長、現会長、役員、知り合いの会員、事務局の方々等に対し、説明・配布し参加を呼び掛けて頂いていた。

今回の韓国貿易学会冬季学術大会への参加全体を通じて、両学会の友好的な関係構築に貢献することができた。

(鈴木清巳)

3. 論文投稿依頼

研究論文(リサーチペーパー)へのご投稿を下記の通り募集致します。

締切期日 2019年3月31日(当日消印有効)

公表予定 随時(発行日は2019年10月の予定です)

文字数等 日本語の場合は、15,000字以上20,000字以内、

英語の場合は、5,000語以上7,000語以内。

ただし、大量のデータや資料を伴う場合は、合計30,000字(英語の場合は10,000語)を限度として編集委員会が認める場合があります。学会ホームページに掲載の「論文テンプレート」を使用して執筆して下さい。なお、提出先等の詳細は、学会ホームページをご高覧下さい。

<http://jaftab.org/?p=802>

日本貿易学会誌・リサーチペーパー投稿票

執筆者名	日本語	
	English	
所属	日本語	
	English	
タイトル	日本語	
	English	
文字数	日本語 (15,000 字以上 20,000 字以内)	字
	English (5,000 語以上 7,000 語以内)	words
審査部門 (いずれかに○をしてください)	1. 学会誌	2. リサーチペーパー
連絡先	(共同論文の場合は代表者) 郵便番号： 住所： TEL： e-mail： FAX：	
備考		

※過去に類似した論文を発表している場合は、タイトル、掲載誌名等を備考欄に記入して下さい。
 ※共同論文の場合は、すべての執筆者名と所属を記入して下さい。

4. 会員へのお知らせ

① 新入会員の募集

日本貿易学会は、1961年（昭和36年）7月1日設立のグローバルビジネス研究のパイオニア的学会です。最近では、一般会員（広くビジネス・フィールドでご活躍されている方）や大学院博士前期課程の院生を受け入れるための会則変更を行い、広く貿易にご関心のある諸氏を募っております。現会員の皆様の周辺におられる方で、ご興味のある方をご紹介いただきたく、よろしく願いいたします。

貿易のほか、国際ビジネス、国際マーケティングから物流・金融などの領域まで、幅広い分野が対象となります。また、大学関係者（教員、大学院生）のほか、企業で調査・研究をされている方、及び、直接実務に携わる方にも、お声掛け頂きますようお願いいたします。

なお、入会手続きの詳細は、学会ホームページをご高覧下さい。

http://jaftab.org/?page_id=27

② 学会活動への参加について

会員の皆さまにおかれましては、全国大会及び東部・西部の各部会において、積極的に参加し、発表頂きますようお願い致します。学会の活動が活発になることで情報交流の意義が高まります。会場にて報告者の発表をお聞きになり、見聞を広めるだけでなく、懇親会で会員相互の親睦を図って頂くことも、学会に参加していることの意義です。会員各位が、積極的に学会の場を活かし自らの研究成果を報告して頂きますよう、あわせてお願いいたします。

③ 名簿の確認について

今般、会員名簿をJAFTABニュースと同送しております。会員名簿は、会員皆様よりお届け頂いている会員情報（所属、連絡先、会員資格）に基づき作成しております。各自、ご確認いただき、変更の必要がありましたら、直ちに事務局あてにご連絡頂きますようお願いいたします。

（加藤孝治）

5. 日本貿易学会入退会者及び会員の異動（2018年6月1日～2019年1月31日）

WEB公開分

個人情報保護の為、
このページの記事は、
割愛致しました。

WEB公開分

個人情報保護の為、
このページの記事は、
割愛致しました。

● 会費納入のお願い ●

本年度の会費（10,000円、シニア会員・大学院生5,000円）の納入をお願い致します。
また、過年度分が未納の方は、併せて納入頂くようお願い致します。

郵便振替口座 00100-9-513578 日本貿易学会
他行から振込の場合 〇一九（ゼロイチキュウ）店 当座 0513578

● 住所等変更について ●

会費の問合せ、登録住所・所属・メールアドレスの変更がございましたら、学会事務局までお届け下さい。

日本貿易学会 会員係

E-Mail : jaftab@mynavi.jp Tel : 03-6267-4550 FAX : 03-6267-4555

〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋 1-1-1 パレスサイドビル 9F (株) 毎日学術フォーラム内